

授業概要

第9回目までは、主として教育の理念と歴史及び、取り上げた教育学者（哲学者を含む）の教育思想と教育方法を講義する。その基礎的知識をもって、第10回からは具体的な教育動向について講義する。また第14回と第15回は、教職と本授業の関連性を確認しつつ、全授業を振り返る作業を行う。

授業計画

第1回	授業ガイダンス 授業内容の説明・授業方法の説明
第2回	海外の教育思想史と教育方法①（古代ギリシャの教育からヘルバルト学派の教育まで）
第3回	海外の教育思想史と教育方法②（20世紀新教育運動とそれ以後の教育）
第4回	日本の教育思想史と教育方法①（古代・中世の教育まで）
第5回	日本の教育思想史と教育方法②（近世の教育まで）
第6回	日本の教育思想史と教育方法③（明治・大正期の教育とそれ以後の教育）
第7回	教育制度①（公教育制度史 イギリス・フランス・ドイツ・アメリカ）
第8回	教育制度②（公教育制度史 日本）
第9回	戦後教育思想史・戦後教育制度史（教育改革を含む）
第10回	生涯学習（生涯教育と生涯学習及び社会教育）
第11回	人権・同和教育 （「人権教育・啓発に関する基本計画」と「人権教育の指導方法の在り方について」（第1次～第3次とりまとめ））
第12回	家庭教育（しつけと虐待及び今日の家庭教育の意義）
第13回	民間教育（戦後の民間教育運動と学校外で行われる教育）
第14回	教職における教育原理の意義（教えることと学ぶことの意義）
第15回	教育とは何か（教育原理の授業内容と自分が経験した「教育史」との比較）
第16回	定期試験

到達目標

教育の基本的概念を身に付けるとともに、その概念を体系的に学び、現在の教育実践との相互関係を理解する。また、教育の制度に関する基礎的知識を身に付け、過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。授業終了時には、身に付けた知識をもとに、今後の教育の在り方を考察できるようになる。

履修上の注意

第1回のガイダンス授業の際に、授業方法・評価方法・予習・復習について詳細に説明する。成績評価に関わる内容であるため必ず出席すること。なお、第1回目の授業に出席できない特別な理由がある場合（あった場合）には申し出て、配布資料を必ず受け取ること。

予習・復習

予習：授業の最後に示された次回の内容について、関連する文献等を読んでおくこと。

復習：毎回の授業で出題された課題を確認し、理解ができていない場合には、プリントに示されている参考文献等をもう一度確認しておくこと。

評価方法

受講態度 10%・提出物の内容 10%・学期末のテスト 80%を基本とし、総合的な観点から評価を行う。教職に関する科目のため、成績評価は厳しい態度で行う。なお、履修者の状況によっては中間テストを行う場合がある。評価方法の詳細は、第1回のガイダンス授業で説明する。

テキスト

毎回プリントを配布する。中央教育審議会答申、憲法、教育法規（特に、教育基本法、学校教育法）等を適宜参照する。